

平成24年度 第2回千葉市スポーツ推進審議会議事録

1 日 時 平成24年11月8日(木) 14:00～

2 場 所 千葉市議会棟 3階 第4委員会室

3 出席者

(1) 委 員 霜禮次郎会長、渡辺志げ子副会長、内山英昭委員、岡村太郎委員、小川直哉委員
谷藤千香委員、五月女重夫委員、寒河江良一委員、増子みき子委員、森幸三郎委員

(2) 事務局

生活文化スポーツ部長

保健体育課長補佐、学校体育係長、千葉市スポーツ振興財団事務局次長

スポーツ振興課長、課長補佐、担当課長補佐、育成係長、スポーツ振興係長
施設係長

4 会 議

(1) 開 会

(2) 挨 拶 審議会会長 生活文化スポーツ部長

(3) 議事録署名人選出

(4) 報 告

① 中学校体育大会の結果について

② 千葉市プチ体操の取組みについて

③ インターネットモニターアンケート調査の結果について

④ その他

(5) 議 事

① スポーツ・レクリエーションの推進について

② その他

(6) 連 絡

(7) 閉 会

5 議事の概要

(1) スポーツ・レクリエーションの推進についての2項目(①トップスポーツとの連携の推進について、②平成24年度重点事業について)の説明後、審議がなされた。

6 会議経過

(1) 開 会 14:00

① 会議は公開

② 委員10人のうち10人出席

(2) 挨 拶

(霜会長)

皆様こんにちは。委員の皆様方には、お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。

さて、ロンドンオリンピック・パラリンピックが終わりスポーツニュースがやや減少気味ですが、振り返りますと、パラリンピックの水泳男子平泳ぎで世界新記録を出し優勝した本市の田中康大選手の活躍は大変喜ばしいことでした。

また、本年度の「ぎふ清流国民体育大会」では、千葉県は天皇杯、皇后杯ともに第7位と健闘し、連続入賞の記録を塗り替えました。県民体育大会の結果は、本市は男女総合優勝でした。今後も、より多くの場で本市に関わりのあるトップアスリートの活躍を期待していきたいと思います。

本日、トップスポーツとの連携の推進につきましては議題に取り上げておりますので、トップスポーツを意識した競技力の向上、あるいは、市民スポーツの推進にトップスポーツが寄与するように、ご意見をいただきたいと思います。併せて、平成24年度の重点事業につきましても委員の皆様にはそれぞれのお立場から、忌憚のないご意見を頂戴してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

(生活文化スポーツ部長)

皆様こんにちは。生活文化スポーツ部長の角田です。会議に先立ちまして、一言ご挨拶申し上げます。

委員の皆様方には大変お忙しい中、第2回スポーツ推進審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、スポーツ行政の所管課が市民局となり、スポーツ振興課で業務を推進し、半年が経過しました。この間、スポーツ振興課ではトップスポーツの推進につきまして重点的に取り組んでまいりました。特に、ロンドンオリンピック・パラリンピックの出場選手を始め、都市対抗野球大会で活躍したJFE東日本硬式野球部などのPRを行い、露出できるようにしてまいりました。試行錯誤しながらも、新しい所管ということで事業推進に取り組んでおりますので、委員の皆様からご意見をいただければ幸いです。

過日の体育の日に発表されました国民の体力テストの結果は、高齢者や子どもの体力が向上しているという、喜ばしいニュースがありました。一方、子育て世代や働き盛りの世代につきましても、体力の向上はまだ十分ではなく、今後の課題としてあげられております。

本市におきましては、手軽にできる千葉市プチ体操を8月より周知を始めたところですが、まだ市民に行き届いてないという現状があります。このようなことを踏まえ、今後の取組みにつきまして検討してまいりましたので、委員の皆様には忌憚のないご意見を願いたします。

おわりに、委員の皆様方には、一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申しあげ、ご挨拶といたします。

(進 行)

会長に議長を依頼する。

(3) 議事録署名人について

(議 長)

議事録の確定方法は、「予め指名された委員」による承認にしたいと思いますが、よろしい

ですか。

(委員)

<異議なし>

(議長)

それでは、議事録署名人として、小川委員にお願いしたいと思います。小川委員よろしく
お願いいたします。

(小川委員)

<了承>

(4) 報告

<1> 中学校体育大会の結果について

(議長)

会議次第に従いまして、進めてまいります。

(4)の報告<1>「中学校体育大会の結果」について、事務局、説明をお願いします。

(事務局)

保健体育課より、レジメ報告資料に基づき報告がなされた。

(議長)

ただ今の報告について、質問などありますか。

(委員)

<特になし>

(議長)

今年度の成績について、昨年度等と比較してどうですか。

(事務局)

新体操の個人の全国優勝につきましては、昨年度に引き続き連続優勝ですが、昨年度は、
他の種目におきましても全国優勝者がいました。

<2> 千葉市プチ体操の取組みについて

(議長)

報告<2>「千葉市プチ体操の取組み」について、事務局、説明をお願いします。

(事務局)

スポーツ振興課より、レジメ報告資料に基づき報告がなされた。

(議長)

ただ今の報告について、質問などありますか。

(委員)

スポーツコーチャーによるプチ体操の指導が実施されているようですが、何回実施し、参
加者は何人ぐらいいましたか。

(事務局)

スポーツ教室での指導は実施していませんが、体操専門部のスポーツコーチャーが地域の
公民館等で指導しています。10名ほどの指導者が、月1～2回程度実施しています。1回
の参加者が10名前後と聞いていますが、参加者の総数は確認できていません。

<3> インターネットモニターアンケート調査の結果について

(議 長)

報告<3>「インターネットモニターアンケート調査の結果」について、事務局、説明をお願いします。

(事務局)

スポーツ振興課より、レジメ報告資料に基づき報告がなされた。

(議 長)

ただ今の報告について、質問などありますか。

(委 員)

インターネットモニターの選出は、無作為ですか。

(事務局)

モニターを希望し登録されている方が、現在、3,032人です。年間10数回の調査がありますが、回答をするかどうかは、登録者の自由です。

(委 員)

インターネットモニターの年齢層はどうなっていますか。

(事務局)

年齢構成について多い順に申しあげますと、30～39歳が1,221人で約40%、40～49歳が783人で約25%、60歳以上が436人で約14%となっています。

(委 員)

インターネットモニターの男女の構成比率はどうなっていますか。

(事務局)

男女の構成比は、男性が1,080人で35.6%、女性が1,952人で64.4%です。

(議 長)

他に質問などありますか。なければ報告(4)その他はありますか。

(事務局)

特にありません

(議 長)

報告は、以上で終わります。

(5) 議 事

<1>「スポーツ・レクリエーションの推進について」

(議 長)

議事<1>のスポーツ・レクリエーションの推進について、①トップスポーツとの連携の推進について、事務局、説明をお願いします。

(事務局)

①トップスポーツとの連携の推進について、説明がなされた。

(議 長)

トップスポーツとの連携の推進についての説明がありましたが、ご質問、ご意見はありますか。

(委 員)

先ほどのインターネットモニターアンケートのトップスポーツに期待することの自由記述には、ある一定数の方から、「トップスポーツの振興をしなくてもよい」という意見が見られました。トップスポーツ自体を応援するだけでなく、「トップスポーツに触れることをき

っかけに、子ども達がスポーツに対して夢を持てるように連携を推進する」という意図も伝えられるとよいと思います。

(委員)

トップスポーツとの連携の今年度の取組みを見ますと、表敬訪問が5件で一番多く、選手の紹介が3件、その他取材やイベントの参加等となっています。市長表敬のケースが多いので市のトップは連携が取れているかもしれませんが、もう少し一般の方々とトップスポーツとの連携が取れたらよいと感じました。先ほどのアンケートの結果からも「自分はどのように関わったらよいか」と思っている方々にアプローチできるとよいと思います。今後はこの辺りの工夫が必要と感じます。また、宣伝の仕方についてですが、私の出身地は、地方紙が主流です。里帰りをした際に新聞を見ますと、県内出身者のスポーツに関する情報が、日本のトップスポーツの結果と同レベルで、同様なスペースで同列に大きく扱われています。このように扱われますと、地元のより多くの方に関心を持っていただくことができますので、本市のトップアスリートのPRということを考えますと、さらに工夫できると思います。

(委員)

子ども達や地域の方は、選手のプレイする姿だけではなく、その選手の生の姿を見たいと感じていると感じます。イベントを開催しなくても、表敬訪問等を少しオープンにして、間近で選手を見ることが出来る機会をつくることもよいのではないかと思います。

(委員)

情報発信についてですが、スポーツが盛んな大学は「〇〇スポーツ」というようなスポーツ新聞があります。紙ベースの新聞となりますと、コストがかかりますので、ホームページで「千葉市のスポーツ」のようなかたちで、スポーツを特集し、いろいろな世代のスポーツ情報を発信する取組みがあってもよいと思います。

(委員)

今年は、ロンドンオリンピック・パラリンピックが開催されたので全体的に多くの取組みがあったと思います。しかし、来年はオリンピックの開催はありません。オリンピック年でもなくとも、今年のような取組数があってもよいと思います。そして、オリンピック年は、今年の2倍ぐらいの活動ができるように、次回のオリンピックまで活動を増やすとよいと思います。また、今年は、オリンピック・パラリンピックの活動が6割以上ですので、今後は、メジャーな野球・サッカー等を中心にトップスポーツとの連携に係る取組みをしていくと、活動の幅が広がり、市民の関心も増すと思います。

(議長)

競技力向上と言いますと一番を目指すことがすべてという考えが主流でしたが、トップスポーツを振興する上で、どのように考えますか。

(委員)

強いことはよいことだと思います。今年、ロッテマリーンズは前半好調でしたが、怪我人等の影響でクライマックスシリーズに出場できませんでした。シリーズに進出していれば関心度は違うと思います。やはり、勝つことにより、メディアの露出が増え、市民の目は向いてきます。また、オリンピック・パラリンピックの結果が良かった選手はクローズアップされますが、好結果が出なかった選手に対しても応援していくことが大切です。千葉市のトップアスリートの出場する大会等を市民に紹介するPRを継続していくことの必要性を感じています。

(議長)

トップアスリートを育成する場合、取り巻く環境が重要です。場や指導者の確保が大切です。

しかし、選手が教員等になり指導者になることが難しい面もあります。この点はいかがでしょうか。

(委員)

指導者も教員だけではないと思います。実際は、一人、二人という指導者が何人もの選手を指導していますので、選手がすべて指導者になることはできないと思います。活躍したアスリートがホームページ等で広く市民に知ってもらい、その後、地域で子ども達中心に教えるような立場になった時に、「ここに掲載されている人だ」となり、子ども達が嬉しく思うような仕組みにつながるとよいと思います。

(議長)

スポーツ選手を取り巻く環境の整備は、大きな課題と思います。

(委員)

プロゴルフの池田勇太選手は、小学生の頃、ジュニアの大会やレッスンでジャンボ尾崎選手に指導を受け、石川遼選手はジャンボ尾崎選手に憧れて切磋琢磨し、一流選手になりました。やはり、現役の一流選手は忙しく時間を取ることは難しいと思いますが、子ども達と触れ合う場を、行政機関や関係団体に設定してもらえると、子ども達がトップアスリートを目指し頑張るという好循環なサイクルができるのでよいと思います。

(委員)

金銭面の負担がないホームページを充実させるということがよいと思います。トップスポーツの連携を考えて市のホームページを作っていると思いますが、アンケート結果を見ますと、モニターの方がスポーツ情報を得ている媒体は市政だよりも多い状況です。市政だよりも掲載された情報をホームページにアップすることは容易でもあると思いますので、掲載することはどうでしょうか。このようなことに取り組むことで、ホームページが身近な存在になっていくと思います。

また、親も参加できる子ども向けの教室・イベントの今年度の取組みは、ランニング教室ぐらいしかありません。スポーツ教室やイベント開催の要望が多くありますので、次年度に向けて、検討が必要であると思います。

(議長)

多くのご意見をいただきましたが、①トップスポーツとの連携の推進につきまして、事務局の提案どおり進めていくことでよろしいでしょうか。

(委員)

<承認>

(議長)

次に、②平成24年度重点事業について、事務局、説明をお願いします。

(事務局)

②平成24年度重点事業の「ア 緑、水辺を活かしたスポーツ大会の開催、ビーチスポーツ活動の促進」について、説明がなされた。

(議長)

ただ今、事務局より説明がありました。ご質問、ご意見はありますか。

(委員)

<特になし>

(議長)

緑、水辺を活かしたスポーツ大会の開催、ビーチスポーツ活動の促進につきましては、課題を踏まえ、今後も継続して取り組んでください。

次に、多世代参加型のスポーツ・レクリエーションの推進、障害者とのスポーツ交流について、事務局、説明をお願いします。

(事務局)

②平成24年度重点事業の「多世代参加型のスポーツ・レクリエーションの推進、障害者とのスポーツ交流」について、説明がなされた。

(議長)

「多世代参加型のスポーツ・レクリエーションの推進、障害者とのスポーツ交流」について、いかがでしょうか。

(委員)

スポーツ推進連絡協議会の多世代参加型の調査結果についてですが、今後の多世代参加型種目の開催可能地区は、現在開催している地区は含まず、他の地区と捉えてよいのですか。

(事務局)

その通りです。

(議長)

スポーツではありませんが、親子三代夏祭りも多世代の交流イベントとして開催されています。スポーツ・レクリエーションを通じた多世代交流、障害者スポーツの目的について、いかがですか。

(事務局)

多世代参加型のスポーツ・レクリエーションについてですが、世代間交流が念頭にあります。多くの世代が同じ場で一緒にスポーツ・レクリエーションを楽しむことをねらいとしています。障害者スポーツにつきましては、障がいのある方にスポーツに取り組んでいただくことにより、生きがいづくりや生活の質の向上を図っていただければと考えています。さらに、パラリンピックなどに出場するような選手が輩出されるとよいと考えています。障害者とのスポーツ交流は、障がいのある方が積極的に地域の行事に参加していただき、健常者と取組んでいただく場の提供を進めていくことも一つです。

(委員)

多世代交流について、私の地域での少年スポーツのチームは、地区の行事に必ず参加しています。一つの種目の取組みに終始せず、人間形成のためにはいろいろな体験が必要です。

(委員)

中学生・高校生の参加が少ないという課題がありました。地域では、学校との連携を図るために働きかけをしていますが、あるイベントについて学校に参加要請した際、カリキュラムに組み込まれていないイベントなので参加はできないという返事がありました。学校との連携について、課題を感じています。

(委員)

地域によって異なると思います。私の居住地域では、地区の体育祭やマラソン大会に小学生・中学生が参加しています。平日のイベント参加を学校に依頼する場合は、次年度の計画作成時に学校側に提案することが大切であると思います。休日の場合でも、部活動の練習や大会との日程調整も出てくると思います。

(委員)

障害者とのスポーツ交流において介添え者等の課題がありましたが、主催者側のことを考

えますと、もし参加希望があった場合、一体誰に相談すると介添え者が来てくれるのか悩むところだと思います。行政同士の横のつながりやスポーツ推進委員等が窓口になってもらえるといいと思います。障がいのある方が、地区の体育祭に車椅子利用で参加したいというニーズがあった場合に、その手伝いができれば、現在取り組んでいる事業で交流を広げていけると思います。

(議長)

障害者の市の窓口は、どこですか。

(事務局)

障害者自立支援課で、障害者の状況把握をし、スポーツ大会も行っています。行政の連携を図っていくことや地域のスポーツ推進委員との連携等、さまざまな連携を図っていきたいと考えています。

(委員)

私の居住地域の体育祭では、障害のある方からの参加希望があった場合、主催者が福祉協議会に連絡しますと、車椅子を用意してくれますので、見るという参加形態を可能にしてくれています。

(議長)

スポーツ施設は、障害者にとってどうでしょうか。千葉ポートアリーナ等のスポーツ施設はどのように配慮されていますか。

(事務局)

千葉ポートアリーナでは、例年、ウィルチェアラグビーや特別支援学級の子どものウルトラ運動会などで利用されていますので、施設面での問題はないと思っています。しかし、健常者との交流の事業は、多くはないと感じます。

(委員)

多世代参加型のスポーツ・レクリエーションの推進は多世代、障害者とのスポーツ交流は、障害者となってしまっている感じがします。もう少し、交流について考えますと、健常者の大会に障害者に参加してもらうスタイルが一つありますが、細かいところでのサポートをする人が必要になってきます。一方、障害者関係の大会もあり、種目によっては一緒に活動する人を求めている場が多くあります。他にも、ボランティアとして参加することも考えられます。このようなことをもっとPRしていくと、既にある場で交流が生まれると思います。

(議長)

多世代参加型のスポーツ・レクリエーションの推進、障害者とのスポーツ交流につきまして、多くのご意見をいただきましたが、他にありますか。ないようですので最後に、スポーツ障害などの予防の啓発、スポーツ医・科学の活用の構築について、事務局、説明をお願いします。

(事務局)

②平成24年度重点事業の「スポーツ障害などの予防の啓発、スポーツ医・科学の活用の構築」について、説明がなされた。

(議長)

「スポーツ障害などの予防の啓発、スポーツ医・科学の活用の構築」についてですが、いかがでしょうか。

(委員)

トップスポーツを考えた時に、スポーツ障害は深い関係があり、これから益々重要視しなければならぬ分野です。実際にスポーツドクターは市内に何人ぐらいいますか。

(事務局)

千葉県スポーツドクター協議会に加盟されています市内のスポーツドクターは、35名います。

(議長)

日本体育協会を始め資料にあります組織からスポーツドクターを養成していますが、市民レベルのニーズは多くありません。資格を持っている医師はもっと多いのですが、組織に属している医師は多くありません。スポーツが盛んになるに従い、若年層の選手が現れます。しかし、発育期の女性は16歳、男性は18歳で発育は止まりますが、それまでに激しいトレーニングをしますとスポーツ障害が発生しますので、気を遣っている点です。スポーツドクターに働きかけ、国際千葉駅伝にスポーツドクターを派遣した経緯があります。スポーツドクターの活動の促進ということについて、いかがですか。

(委員)

スポーツと怪我・障害は、密接なつながりがあります。地区の体育祭の参加者は、3歳ぐらいの幼児から80歳過ぎの高齢者もいますが、怪我・事故が心配です。そこで、常に医学に精通した方と連携していくことは重要であると思います。

(委員)

先ほど発言しました「千葉市のスポーツ新聞」のようなものをホームページへの掲載や紙ベースで配付し、議長からありました「発育期における激しいトレーニングは、スポーツ障害の原因となる」というような知識を発信する場を設ければスポーツドクターの名前や資格等の認知度も上がると思います。お子さんがスポーツをしている親御さんも、新たな知識に触れる機会にもなると思います。先日、ぎふ国体の会場に行ってきましたが、ドクターや看護師が各会場に必ずいました。選手が怪我をした場面がありましたが、すぐに診察が行われたので選手は大丈夫でした。このような大会のパンフレットにスポーツドクターや看護師の記載やアナウンスがあると、よいと思います。スポーツドクターや看護師の方も仕事に対する誇りがモチベーションも上がると思います。

(委員)

スポーツに携わっている人の多くは、体に関する悩みを何らか持っていると思います。しかし、多くの場合は、ひとまず日常生活はできるので、医者に行くことはどうかと思っている人も多いと思います。スポーツ大会での活躍の場を求めている医師もいることがわかり嬉しく思いました。一般市民に、スポーツドクターに期待することやニーズを調査することもよいと思います。スポーツドクターと市民の双方の接点を取りやすくなると思います。

(議長)

スポーツ障害などの予防の啓発、スポーツ医・科学の活用の構築につきまして、他に意見はありますか。それでは、②平成24年度の重点事業について、事務局の提案どおり引き続き取り組んでいくことでよろしいでしょうか。

(委員)

<承認>

(議長)

議事(1) スポーツ・レクリエーションの推進については、以上で終わります。議事(2) その他、ありますか。

(事務局)

特にありません。

(議 長)

それでは、議事終了いたします。ご協力ありがとうございました。

(進 行)

会長、進行ありがとうございました。委員の皆さま、慎重なご審議ありがとうございました。

最後に、事務局より連絡させていただきます。

(6) 連 絡

(事務局)

第3回スポーツ推進審議会は、平成25年2月6日(水)開催予定ですが、確定しましたら改めて、ご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。

(進 行)

これを持ちまして、平成24年度第2回スポーツ推進審議会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

(7) 閉 会 15:30終了